

市立三次中央病院倫理委員会 承認研究倫理 状況報告一覧

平成31年4月現在

承認年月日	課題名(医学研究)	申請者			報告年月日	区分	研究期間	状況報告期間	経過の概要
平成22年 4月6日	唾液中のクロモグラニンAおよび分泌型IgA, C反応性蛋白を指標とした歯科診療におけるストレス定量法の開発	歯科口腔外科	医長	佐渡 友浩	R1.5.17	継続中	H22.4.6～ R2.3.31	H22.4.6～ R1.5.17	H30.6.7, 指標追加による変更申請を承認。 予定被験者数 100例, 同意取得例数 30例, 実施症例数 30例, 有害事象なし。検体採取継続中。
	StageⅢb大腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1/Oxaliplatin療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	外科	副院長	立本 直邦	R1.6.14	継続中	H22.4.6～	H22.4.6～ R1.6.14	
平成25年 7月26日	切除可能な大腸癌肝転移に対するXELOXとペバシツマブによる術前VS術後化学療法の有効性に関する多施設共同ランダム化第Ⅱ/第Ⅲ相試験(HiSCO-01試験) 附随研究:大腸癌肝転移に対する化学療法が肝内免疫担当細胞機能に与える影響ならびに化学療法の感受性に関する附随研究	外科	副院長	立本 直邦	R1.6.14	継続中	H25.7.26～	H25.7.26～ R1.6.14	予定被験者数 3例, 同意取得例数 1例, 実施症例数 1例, 中止症例数 0件。
平成25年 9月3日	ステロイド抵抗性, 依存性の潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの効果と予測因子の検討	消化器内科	医長	永井 健太	H29.5.31	継続中	H25.8.25～ H30.3.31	H25.8.25～ H29.5.31	予定被験者数 2例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。
平成25年 11月13日	広島地域における大腸ESDの有効性と安全性に関する多施設共同研究(前向きコホート研究と後向きアンケート調査)	消化器内科	医長	趙 成大	H30.5.11	継続中	H25.11.13～	H25.11.13～ H30.3.31	同意取得例数 80例, 実施症例数 80例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 現在も進行中である。現在まで当院では80例くらい同意を得て実施した。
平成26年 2月18日	JGOG2046 「臨床的FIGO Ⅳb期子宮体がんに対する寛解導入化学療法後の腫瘍摘出術に関するFeasibility Study」	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了		H30.3.31終了	予定被験者数 2例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 有害事象なし。
	日本人工関節学会の行う「日本人工関節登録制度」に人工股関節置換術および人工膝関節置換術の患者登録を行う	整形外科	医長	杉岡 敏博	R1.5.31	継続中	H30.4.1～ H31.3.31	H30.4.1～ H31.3.31	被験者数 15例。 上記期間に施行した人工関節置換術は全部で15症例であった。内訳は全て人工膝関節置換術。本研究は引き続き継続の予定である。
平成26年 7月30日	未分化型早期胃癌の臨床病理学的特徴や分子生物学的悪性度についての検討	消化器内科	医長	永井健太	H29.5.31	継続中		～H29.5.31	予定被験者数 2例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。
	GOTIC-001/JGOG3019 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin3週毎点滴静注投与 対 Paclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin3週毎腹腔内投与のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了		H30.4.1～ H31.3.31 H30.7.31終了	H30.5.23, 実施計画書改定による変更申請を承認。 H31.3.15, 他院研究責任医師の変更による変更申請を承認。 予定被験者数 4例, 同意取得例数 3例, 実施症例数 3例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。
	低線量CTによる肺がん検診における疫学および画像工学的研究	呼吸器内科	医長	栗屋 禎一	R1.6.1	継続中	H26.6.6～ H30.12.31	H30.1.1～ H30.12.31	実施症例数 1312例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 要精査82人 要精査率6.3%。 肺がん症例16人 10万対457人。 Ⅰ期6人(腺癌2人, 扁平上皮癌4人), 全例に手術を施行
	中咽頭扁平上皮がんに対する集学的治療の効果とヒト乳頭腫ウイルス感染との相関に関する研究	耳鼻咽喉科	病院長	永澤 昌	R1.5.21	継続中	H26.7.30～	H30.4.1～ H31.3.31	同意取得例数 1例, 有害事象なし。
平成26年 9月26日	再発危険因子を有するStageⅡ大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究	外科	副院長	立本 直邦	R1.6.14	継続中	H26.9.26～	H26.9.26～ R1.6.14	H31.2.22, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 10例, 同意取得例数 10例, 実施症例数 10例。
	JGOG3020 ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	中止	H29.7.1～ H36.6.30	H30.4.1～ H31.3.31 H31.3.31中止	予定被験者数 3例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 有害事象なし。 試験参加中止。担当者退職。
平成27年 1月27日	StageⅢ高齢者(80歳以上)大腸癌症例に対するUFT/LV術後補助化学療法の安全性及び有用性試験 ～HiSCO 03試験～	外科	医長	小林 健	R1.6.10	継続中	H27.1.27～ R2.12	H29.7.1～ R1.5.31	予定被験者数 3例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。
	StageⅢ高齢者(80歳以上)大腸癌症例の予後調査観察研究 ～HiSCO 04試験～	外科	医長	小林 健	R1.6.10	継続中	H27.1.27～ R2.12	H29.7.1～ R1.5.31	予定被験者数 5例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。

平成27年 3月24日	安定型冠動脈疾患を合併する非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサバン単剤療法に関する臨床研究(AFIRE Study)	循環器内科	主任医長	田中幸一	H30.11.13	終了	H27.3.24～ H30.9.30	H27.3.24～ H30.9.30 H30.9.30終了	予定被験者数 10例, 同意取得例数 10例, 実施症例数 10例, 脱落・中止症例数 0例。有害事象及び不具合の発生2件, 重篤な有害事象2件。 ①甲状腺がんの肺転移増悪, ②両眼白内障。いずれも本研究の薬剤(リバーロキサバンまたは他の抗凝固剤あるいは抗血小板剤)と関連があるとは現在の医学的常識では考えられないが研究事務局からすべての有害事象を報告するよう求められたため書類を提出した。研究事務局に提出した書類に詳細はあるのでこれらを添付する。 H31.2.7, 重篤な有害事象に関する報告あり。(1件追加)
平成27年 7月28日	日本骨折治療学会運動器外傷データベース[Database of Orthopaedic Trauma by Japanese Society for Fracture Repair(DOTJ)]における四股長管開放骨折症例の登録事業への参画	整形外科	医長	杉岡 敏博	R1.5.31	中止	H30.4.1～ H31.3.31	H30.4.1～ H31.3.31	H30.3.31研究中止。本研究は担当責任者が異動のため中止となっている。
平成27年 8月26日	通常線量CT, 低線量CT, 超低線量CTによる肺結節の検出能の比較検討	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.1	継続中	H26.6.6～ H30.12.31	H30.1.1～ H30.12.31	実施症例数 1312例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。要精査82人 要精査率6.3%。 肺がん症例16人 10万対457人。 I期6人(腺癌2人, 扁平上皮癌4人), 全例に手術を施行 超低線量CTでも十分に読影に耐えられる画像が得られていた。
	ピロリ菌除菌後健康人における胃粘膜DNAメチル化レベルを用いた胃がん発生高危険度群の捕捉に関する多施設共同前向きコホート研究	消化器内科	医長	趙 成大	H30.5.11	継続中	H27.8.26～	H27.8.26～ H30.4.30	同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例。アンケートに回答するのが煩雑で時間がかかることなどから同意取得に至っていない。 H31.1.24, 実施計画書変更による変更申請を承認。
平成27年 11月10日	子宮平滑筋肉腫の診療実態に関する調査研究Ver.1.3	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了	H27.11.10～ H27.12.1	H27.12.1終了	有害事象なし。 アンケート調査報告済み。
平成28年 1月7日	低線量CTによる肺がん検診における肺, 縦隔, 心血管病変の描出能に関する検討	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.1	継続中	H26.6.6～ H30.12.31	H30.1.1～ H30.12.31	実施症例数 1312例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。要精査82人 要精査率6.3%。 肺がん症例16人 10万対457人。 I期6人(腺癌2人, 扁平上皮癌4人), 全例に手術を施行
平成28年 5月6日	肺がん患者の血栓塞栓症発症率の観察研究ならびに静脈血栓塞栓症に対する新規第Xa因子阻害薬エドキサバンの有効性と安全性に関する検討	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	継続中	H28.5.6～ R3.5.31	H28.5.20～ R1.6.3	H30.5.23, 登録期間延期による変更申請を承認。 H31.2.7, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 6例, 同意取得例数 6例, 実施症例数 6例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 現在まで全例で血栓塞栓症の発症は認めていない。現在, 症例の経過観察中である。
	静脈血栓症合併肺がん患者におけるEGFR-TKI併用下での新規第Xa因子阻害薬エドキサバンの薬物動態に関する検討	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	継続中	H28.5.6～ R3.5.31	H28.5.20～ R1.6.3	H30.5.23, 登録期間延期による変更申請を承認。 予定被験者数 0例, 同意取得例数 6例, 実施症例数 6例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 6例の中に血栓症を発症した症例はなかった。
平成28年 6月21日	JGOG3023 ベバシズマブ既治療のプラチナ製剤抵抗性再発の上皮性卵巣がん, 卵管がん, 原発性腹膜がんにおける化学療法単剤に対する化学療法+ベバシズマブ併用のランダム化第II相比較試験	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了	H27.6.1～ H30.11.30	H30.4.1～ H30.11.30 H30.11.30終了	予定被験者数 1例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 有害事象なし。 症例なし。試験期間終了。
平成29年 2月22日	JGOG1078S 本邦における外陰腫悪性黒色腫に関する調査研究	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了	H29.2.22～ H29.4.30	H29.4.30終了	有害事象なし。 アンケート調査報告済み。
	JGOG3025 卵巣癌における相同組換え修復異常の頻度とその臨床的意義を明らかにする前向き観察研究	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了	H29.7.1～ H30.6.30	H30.6.30終了	H30.7.3, 実施計画書変更による変更申請を承認。 H31.2.8, 実施計画書変更による変更申請を承認。 予定被験者数 3例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 有害事象なし。 同意取得症例なく, 集積期間終了。
平成29年 6月20日	活性型EGFR遺伝子変異を有する進行・再発非小細胞肺癌患者に対する一次治療としてのアファチニブ+ベバシズマブ併用療法とアファチニブ単剤療法のランダム化第II相試験	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	継続中	H30.1.1～ R1.6.3	H30.1.1～ R1.6.3	H29.6.20, 倫理審査を依頼し, 岡山大学病院長他が承認した。 H31.2.8, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 0例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 対象症例はいなかった。現在, 症例登録期間中である。
平成29年 9月11日	EGFRチロシンキナーゼ阻害剤に抵抗性のEGFR T790M変異陽性, PS不良の非小細胞肺癌症例に対するオシメルチニブの第II相試験	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	継続中	H30.1.1～ R1.6.3	H30.1.1～ R1.6.3	H31.2.7, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 0例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 対象症例はいなかった。5月28日に登録期間を終了した。
平成29年 12月26日	HBs抗原陽性のB型肝炎ウイルス持続感染者における予後および発癌に関する検討	消化器内科	医長	児玉 英章					

平成30年 2月6日	既治療の高齢者進行非小細胞肺癌患者に対してNivolumabを投与する探索的試験	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	中止	H30.2.13～ R1.6.3	H30.2.13～ R1.6.3	予定被験者数 0例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 広島大学病院で臨床試験の継続困難の判断がなされ, 臨床試験が中止となった。
	全身状態不良の未治療進行非小細胞肺癌患者に対するベムプロリズマズ療法の有効性と安全性を検討する探索的臨床試験 (PROLONG STUDY-1)	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	中止	H30.2.13～ R1.6.3	H30.2.13～ R1.6.3	予定被験者数 0例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 広島大学病院で臨床試験の継続困難の判断がなされ, 臨床試験が中止となった。
	未治療の高齢者進行非小細胞肺癌患者に対するベムプロリズマズ療法の有効性と安全性を検討する探索的臨床試験 (PROLONG STUDY-2)	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.3	継続中	H30.2.13～ R1.6.3	H30.2.13～ R1.6.3	H30.5.16, 研究方法等2点の変更申請を承認。 H31.2.8, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 0例, 同意取得例数 0例, 実施症例数 0例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 対象症例がいなかった。現在, 症例登録期間中である。
	呼吸リハビリテーションが必要かつ意欲低下のある慢性閉塞性肺疾患患者の体力増強に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する非盲検ランダム化並行群間比較研究	呼吸器内科	医長	粟屋 禎一	R1.6.1	継続中	H30.1.25～ H30.12.31	H30.2.13～ R1.6.3	H31.2.8, 特定臨床研究に伴う変更申請を承認。 予定被験者数 4例, 同意取得例数 2例, 実施症例数 2例, 脱落・中止症例数 0例, 有害事象なし。 2人とも副作用なし。現在, 症例登録期間中である。
平成31年 2月28日	維持血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症患者を対象とした長期観察研究 (ETERNAL Study)	腎臓内科	医長	吾郷里華		対象外			

研究倫理(論文発表・個人情報に関するもの)

承認年月日	課題名(研究倫理)	申請者			報告年月日	区分	研究期間	状況報告期間	経過の概要
平成28年 5月24日	子宮頸部円錐切除術の実態調査	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	終了	H28.5.24～ H28.7.31	H28.7.31終了	有害事象なし。 アンケート調査報告済み。
平成28年 6月22日	小児中心静脈カテーテル感染症に対するエタノールロック療法による治療	小児科	医長	小野 厚	H31.4.15	継続中	H28.6.22～	H30.4.1～ H31.3.31	予定被験者数 1例, 同意取得例数 1例, 実施症例数 1例, 脱落・中止例数 0例, 有害事象なし。 頻回にカテーテル感染を繰り返しており, 抗生剤の全身投与とエタノールロック療法を併用している。2019年3月カテーテル交換を行った。現在2週間ごとにエタノールロックを施行している。
平成29年 4月11日	地域包括ケア病棟の現状からみえる急性期リハ経験と介護保険制度知識や地域資源情報を兼ね備えたPTが病棟専従の理由	リハビリテーション科	主査	坂井 香津恵	R1.5.10	終了	H26.9.1～ H29.12.31	H29.7.30終了	有害事象なし。地域包括ケア病棟開設後, 入棟された患者さんの「疾患」「主科」「性別」「入棟時Barthel index」「退院時Barthel index」「担当療法士」「在棟日数」「入院時診療群分類名称」のデータを11, 研究課題に沿ってデータの収集・分析を行っていた。実際は左記日程の途中段階で分析を終了とした。実際のデータは今のところも収集中だが, 再度発表の際に倫理委員会に提出する。
平成29年 6月6日	非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究 All Nippon AF In Elderly Registry -ANAFIE Registry- (企業主導臨床研究)	循環器内科	診療部長	田中 幸一	R1.5.14	継続中	H29.6.6～ R1.9.30	H29.6.6～ H31.4.30	予定被験者数 20例, 同意取得例数 18例, 実施症例数 18例, 脱落・中止例数 0例, 有害事象なし。 18例登録し, 現在観察期間中である。
平成29年 10月5日	脳卒中患者の排尿行動拡大に向けたチームアプローチ	4階西病棟	看護師長	田根 安子	H31.4.17	終了	H29.10.10～ H30.1.20	H29.10.5～ H30.1.20 H30.1.20終了	予定被験者数 3例, 同意取得例数 3例, 実施症例数 3例, 脱落・中止例数 0例, 有害事象なし。 研究対象者1名は, 起床から就寝までは尿失禁が減少した。研究対象者1名は, 昼間の尿失禁がなくなりオムツ排泄から車椅子でトイレで排尿できるまでになった。研究対象者1名は, 終日尿失禁がなくなり, シルバーカーでトイレ歩行でき排尿自立となった。以上の結果から, 脳梗塞発症後の排尿行動再獲得に向けた作業療法士との連携は尿失禁の減少と排尿行動拡大に有効であることが示唆された。
平成29年 10月30日	DPCデータを用いた心疾患における医療の質に関する事業	循環器内科	診療部長	田中 幸一	R1.5.14	継続中	H29.4.1～ H30.3.31	H30.4.1～ H31.3.31	有害事象なし。 毎年のデータを送っている。
平成29年 11月22日	広島県内の新鮮凍結血漿の使用状況とその患者予後の検証のための多施設共同研究	輸血療法委員会	委員長	永澤 昌					

平成29年 12月28日	一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業 (Japan Neurosurgical Database : JND)	脳神経外科	医長	浜崎 理	H31.4.15	継続中	H27.1.1～	H30.1.1～ H30.12.31	実施症例数136例、有害事象なし。 患者情報は匿名化されており、個人情報の漏洩の危険性もないため、有害事象は生じ得ない。登録事業であり、手術を行っていく限り今後も中止はない。集計されたデータに対して日本脳神経外科学会として必要に応じた集計と統計学的評価が行われる予定であるが、具体的な予定もまだ公表されていない。
平成29年 12月28日	がん化学療法に伴うB型肝炎ウイルス再活性化予防における市立三次中央病院の取り組み	薬剤科	係長	山下 秀之	H31.4.15	終了	H29.12.28～ H30.3.16	H30.3.16終了	有害事象なし。 当院における新規化学療法患者に対するHBVスクリーニング実施件数は、取組開始から4年間で504件あり、HBs抗原陽性患者が9人(1.8%)、HBV既往感染者が170人(33.7%)でHBVスクリーニングの重要性が示された。内島らの報告では、初めてがん化学療法が実施される患者全例を対象としたHBVスクリーニングHBs抗原陽性患者は1.4%、HBV既往感染者は35.5%とされ、同程度の割合であることがわかった。当院におけるHBVキャリア症例の短期間での再活性化事例からも化学療法の継続には十分な注意を必要とすることがわかった。一方、既往感染者のモニタリング結果より、固形癌に対する化学療法ではHBV再活性化は起こりにくいことが示されたが、HBV-DNA陽転化事例に遭遇したことて継続的なモニタリングの必要性が示された。
平成30年 1月10日	骨転移に対する放射線治療後の身体症状の実態調査	リハビリテーション科	主任	上野 千沙	H31.4.22	終了	H30.4.1～ H30.9.30	H28.1.1～ H29.12.31 H30.9.30終了	予定被験者数 28例、同意取得例数 28例、実施症例数 22例、脱落・中止例数 6例、有害事象なし。 2016年1月から2017年12月の2年間に、当院に入院され骨転移の初回放射線治療を行いリハビリテーションが処方された28名を対象とし、後方視的に研究を行った。状態悪化で治療を中止した6名は除外。平均年齢は68.8歳。男女比は男13名、女9名。全例分割照射実施され、化学療法併用は10名(45%)、オピオイド使用は17名(88%)であった。 RT終了時に有害事象スケールのCTCAEグレードで最も高い重症度の平均値を現したのは便秘の1.6で、次に食欲不振の1.5、貧血の1.3、疼痛の1.09が上位4つであった。RT開始日と終了日と比較すると疼痛は改善を認め、骨折は変化が見られず、高Ca血症と皮膚障害は有害事象の出現は見られなかった。 疼痛が改善したのは56%で、そのうちオピオイドの使用者が77%を占めており、適切な疼痛コントロールが行えていることがうかがえた。治療後に骨圧潰など骨転移部の変化はないものの治療終了時の疼痛悪化は2例(肺癌・食道癌1名ずつ)であった。疼痛悪化例は新たな転移が起こり、照射後の予後は3か月以内と予後が悪い症例であり、治療後の疼痛悪化は予後不良因子となりうることを示唆された。
平成30年 5月23日	降下性壊死性縦隔炎の発生と治療法および予後に関する観察研究 JBES1703/JACS1806	耳鼻咽喉科 呼吸器外科	医長 医長	永澤 昌 赤山 幸一	H31.4.15	中止		H30.4.1～ H31.3.31 H31.3.31中止	予定被験者数 0例、同意取得例数 0例、実施症例数 0例、脱落・中止例数 0例、有害事象なし。 治験対象期間に該当症例なく、中止終了とする。
平成30年 6月20日	根治的同時化学放射線治療が行われた子宮頸がん症例における治療前画像診断を用いた予防的拡大照射野の適応に関する検討	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	中止		H30.4.1～ H31.3.31 H31.3.31中止	予定被験者数 1例、同意取得例数 0例。 適格症例なし。担当者退職。
平成30年 7月3日	当院におけるヒドロモルフォンの使用状況の検討、及び1日1回経口モルヒネ徐放製剤の使用状況の検討	薬剤科	主査	原 圭子	R1.5.7	終了	H29.10.1～ H30.5.31	H30.11.24終了	予定被験者数 20例、実施症例数 20例、有害事象なし。 ヒドロモルフォン投与患者は8例で平均年齢は75歳(63～89)。8例中、オピオイド使用目的が除痛は7例で、呼吸苦改善が1例。またオピオイドナリーブの患者が2例で、スイッチングが6例であった。スイッチングの半数は投与経路変更で、半数は副作用軽減目的。ナリーブ患者の開始量は全て2mgからであり、投与量の多かった症例は全て注射剤からのスイッチングであった。最大使用量の患者は96mgを転院するまで49日間継続できている。また2例に中程度～高度の腎臓機能低下が見られたが、副作用による中止や減量はみられなかった。一方、モルヒネ経口患者は12例で平均年齢は65.4歳(46～89)。全例がe-GFR>60であり、12例中5例に呼吸苦のある患者であった。以上において、新規薬剤であるヒドロモルフォンの有効性と両剤の開始量、腎機能による影響を考慮した投与量であること、疼痛以外の目的投与など適正に投与されていることなど確認された。

平成30年 7月9日	特定治療室入室患者の重症度、医療看護必要度からみたpost-ICUの経過からみたリハビリテーション介入状況の分析	リハビリテーション科	主査	崎元 直樹	R1.5.16	継続中	H30.4.13～ H30.12.31	H30.4.13～ H30.6.30	有害事象なし。 ICU入院患者91例を対象に調査を行った。消化器外科35例、整形外科22例、呼吸器外科10例、泌尿器科7例他であった。重症度、医療・看護必要度(必要度)分析では、B項目の経過として、14日間のモニタリングを行いB項目が3日以上連続して変化したことを条件に「上昇群」「低下群」「非該当群」に分類した。「上昇群」28名、「低下群」43名、「非該当群」20名であった。年齢は「上昇群」が70.6±13.9歳で最も若く介護度も低い傾向があった。ICU入室日数は「非該当群」が2.4±1.9日であり、リハビリ処方日数も4.2±4.0日と遅延していた。入室中のA項目の最高点は「非該当群」が6.2±2.7点と最も高かった。リハビリ処方は「低下群」において27%と最も低いものの入院日数12.5±9.8日と短期間であったが、「非該当群」では39.9±34.0日であった。「非該当群」においてはA項目が高く必要度も高い状況で、ICU入室日数も長くなっているなかで、ICU入室日数と処方までの乖離が見られた。「非該当群」においてリハビリ介入の遅れを示唆している可能性が考えられた。ICU入室日数が長期化する場合はA項目が高い場合、退室後もB項目が変動する可能性があると考えられた。B項目が不安定になる患者のpost-ICU(ICU退室後)の経過フォローもリハビリテーション観点から重要であり、早期に対応が行えるよう早い段階からリハビリ観点でのモニタリングや退室後経過においてもモニタリングが必要であると考えられた。現在、リハビリ処方状況について対象患者を継続分析中である。ICU退室後の状況に合わせた適切なリハビリ処方(介入)を検討していくために継続して分析を進めている。
平成30年 7月19日	胃癌関連施設共通データベースの構築	外科	副医長	岡野 圭介	H31.4.16	継続中	H30.7.11～	H30.7.11～	有害事象なし。 広島県において胃癌共通データベースを作成することで、治療の実際を把握するとともに、症例数の多い研究を行うことを目的としている。現在、2018年1月からの外科での胃癌症例を集積している。当院では2018年1月から2019年3月までに31例の胃癌手術が行われており、これまでにその治療情報・病理所見をデータベースに登録している。今後、保存した臨床データは連結匿名化を行った上で、管理者に送り、そこで解析が行われることになっている。
平成30年 8月27日	急性期虚血性脳卒中の再開通療法における施設間医療連携に関する調査研究 (Part1, Drip&Ship法に関する調査研究) (Part2, MTに関する調査研究)	脳神経外科	医長	浜崎 理	H31.4.15	継続中	H28.1.1～ H31.12.31	H28.1.1～ H29.12.31	有害事象なし。 患者情報は匿名化されており、個人情報の漏洩の危険性もないため、有害事象は生じ得ない。研究の結果は各研究発表者が登録を終了した平成32年頃に公表される予定である。
平成30年 9月5日	産科大量出血に対するフィブリノゲン製剤の使用	産婦人科	医長	藤本 英夫	H31.4.15	継続中	H30.10.1～	H30.10.1～ H31.3.31	予定被験者数 2例、同意取得例数 0例、実施症例数 0例、有害事象なし。 該当症例なし。継続中。
平成30年 10月15日	三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス — 歯科・口腔外科領域感染症 —	歯科口腔外科	医長	佐渡 友浩					
平成30年 12月13日	小規模semi-closed ICUでの早期離床・リハビリテーション加算における介入状況	リハビリテーション科	主査	崎元 直樹					
平成31年 2月8日	手術室で働く時短看護師の緊急手術対応の課題	手術室・サブライ	主任	西田 周代					

対象外